令和４年度第１回船橋市商工業戦略プラン推進会議　会議録

（令和４年１２月２７日作成）

１　開催日時　令和４年１２月１４日（水）１０時００分～１１時３０分

２　開催場所　船橋市役所本庁舎　１０階　中会議室

３　出席者

⑴　船橋市商工業戦略プラン推進会議委員（１１名）

篠田　好造　委員長（船橋商工会議所　会頭）
田口　聡二　副委員長（船橋市地域工業団体連合会　会長）
鎌倉　龍男　委員（船橋市商店会連合会　会長）
中村　仁一　委員（船橋市貿易振興会　会長）
二宮　　正　委員（船橋総合卸商業団地協同組合　理事）
伊藤　將美　委員（一般社団法人　船橋市観光協会　代表理事）
三槝　　栄　委員（市川市農業協同組合　船橋地区統括理事）
木下　宏之　委員（ちば東葛農業協同組合　専務理事）
山崎　則之　委員（船橋市漁業協同組合　代表理事組合長）
木村　　智　委員（船橋市　企画財政部政策企画課長）
市原　保紀　委員（船橋市　経済部長）

⑵　事務局（７名）

商工振興課　宇都宮課長、石﨑課長補佐、澤田商業係長、中台工業係長、
藤巻経営労政係長、石橋観光プロモーション係長、宮田主任主事

４　欠席者

浦崎　　大　委員（船橋大型店連絡協議会　会長）
平川　道雄　委員（船橋市自治会連合協議会　会長）
鈴木　善之　委員（公益財団法人千葉県産業振興センター　理事　総務企画部長）

５　議題及び公開・非公開の別並びに非公開の場合にあっては、その理由

⑴　議題

①　委員長・副委員長の選出について
②　商工業戦略プラン後期戦略　重点取組事業の令和４年度実績･予定について
③　新型コロナウイルス感染症及び物価高騰の影響について

⑵　公開・非公開の別　　公開

６　傍聴者数　０名

７　議事

○事務局（商工振興課長）

定刻のため、これより「令和４年度　第１回船橋市商工業戦略プラン推進会議」を開始する。

船橋市商工業戦略プラン推進会議は、本市の商工業の持続的な発展に向けた方向性及び成長戦略を示すことを目的に、平成２７年度に策定した「船橋市商工業戦略プラン」の進捗管理を行うことを目的に設置された会議体であるが、新型コロナウイルス感染症の流行後は書面開催が続いており、このように顔を合わせて開催するのは令和元年度以来となる。本日、浦崎委員、平川委員及び鈴木委員については、所用により欠席の連絡をいただいている。

本会議は、船橋市の設置する附属機関に準ずる機関として、船橋市情報公開条例第25条の規定により、会議は原則として公開することとされている。本日の議題には不開示情報が含まれていないので、会議は公開するものとして、市ホームページにて傍聴希望を受け付けていたが、傍聴希望者はいなかったことを報告する。

議題①　委員長・副委員長の選出について

○事務局（商工振興課長）

それでは、議題１「委員長・副委員長の選出について」に入る。船橋市商工業戦略プラン推進会議設置要綱第５条では、委員長は委員の互選により定め、副委員長は委員長の指名により定めるものと規定されている。委員長に立候補もしくは推薦される方はいるか。

○伊藤委員

船橋商工会議所会頭の篠田委員を、委員長に推薦する。

○一同

異議なし

○事務局（商工振興課長）

只今、伊藤委員から篠田委員を推薦いただき、皆様にご承認いただいた。

続いて、篠田委員長より副委員長の指名をお願いしたい。

○篠田委員長

それでは、船橋市地域工業団体連合会会長の田口委員を指名したいと思うが、皆様いかがか。

○一同

異議なし

○事務局（商工振興課長）

それでは、篠田委員長、田口副委員長にご挨拶をお願いしたい。

○篠田委員長

商工会議所は中小零細企業の集まりであり、より地元に密着した意見を、私も商店出身であるので、本会議に役立つ意見を出していきたいと思う。議長は不慣れだが、よろしくお願いしたい。

○田口副委員長

私も船橋市には学生の頃から３０年程住んでいるが、人口が増え、非常に住みやすくなった。周りの方々もこれから船橋市に住みたいと思えるような魅力あるまちづくりに、商工業の観点から貢献できればと思う。

○事務局（商工振興課長）

篠田委員長、進行はこのまま事務局が行うものとしてよろしいか。

○篠田委員長

よろしくお願いしたい。

議題②　商工業戦略プラン後期戦略　重点取組事業の令和４年度実績・予定について

○事務局（商工振興課長）

続いて、議題２「商工業戦略プラン後期戦略　重点取組事業の令和４年度実績・予定について」に移る。

まず、最初に「商工業戦略プラン後期戦略」について簡単にご説明する。

商工業戦略プランは平成２８年度から令和７年度までの１０年間を計画期間としているが、後期戦略は中間年度を迎えた令和４年３月に見直しを行った。

４６ページに、後期戦略の基本方針として、社会経済情勢や前期戦略の進捗を踏まえ、「新型コロナウイルス感染症の影響を乗り越え、これからの時代を見据えた経済施策を

推進する」こととしている。そして、これを実現するための重点取組事業を、４７ページ以降に計１３事業掲載している。

この議題では、各重点取組事業の令和４年度の実績及び予定について報告する。ここからは、商工振興課課長補佐　石﨑が説明する。

○事務局（商工振興課長補佐）

配布している資料２に沿って説明する。

後期戦略における重点取組事業は、施策１「新型コロナウイルス感染症の影響を乗り越えるための経済施策」として３事業、施策２「これからの時代を見据えた経済施策」として１０事業、計１３事業ある。

資料２には、この１３事業の後期戦略における記載内容と、今年度の実績・予定を記載しているが、このうち令和４年度において特別な取組を行っている事業を中心に、実績や予定を説明する。

施策１の「新型コロナウイルス感染症の影響を乗り越えるための経済施策」では、令和４年９月補正予算で事業化した、市内に事業所を有する中小事業者向けの市独自の助成制度について説明する。

まず、１－①「資金繰りに対する支援」であるが、一つ目の制度として、「船橋市エネルギー料金高騰対策助成金」がある。これは、コロナ禍において物価高騰が続く中、特に影響が大きい電気・ガスといったエネルギー料金の値上がり分について、市内に事業所を有する中小企業者等に対し利用総額に応じて最大６０万円を交付するものである。１１月１５日から申請受付を行っており、１２月９日現在で４４５件、約１億４２００万円分の交付決定を行っている。

二つ目の制度は、「船橋市貨物自動車運送事業者燃料費高騰対策助成金」である。これは、燃料費高騰の影響を特に受けている貨物事業者運送事業に対して、車両の保有台数に応じて最大２００万円を交付するものである。こちらは、１０月１３日から申請を受け付けており、同じく１２月９日現在で、１３６件、１億２６４３万円分の交付決定を行っている状況である。

続いて、１－②「新しい生活様式に対応する支援」に関する制度であるが、「船橋市事業再構築・設備投資促進補助金」である。これは、事業者の皆さんが時代に即した事業再構築・設備投資を促進するため、国の補助制度の「事業再構築補助金」「ものづくり補助金」「小規模事業者持続化補助金」を利用する際に専門家から申請支援を受ける経費に対し補助するものである。国庫補助の採択可否を問わず、申請にあたり専門家から支援を受けた際、上限額２５万円として経費の２分の１を補助する事業であるが、国の補助制度を申請した後の申請となることもあり、本日の時点でまだ申請が無い状況となっている。

これらの助成制度は、財源として国の交付金の活用を想定していることもあり、令和

５年２月２８日をもって申請期限としている。引き続き周知に努め、多くの事業者の支援につながるように努めたいと考えている。

続いて、施策２「これからの時代を見据えた経済施策」である。

２－②「販路拡大の支援」から説明する。船橋市では、令和３年８月に包括連携協定を株式会社メルカリ・株式会社ソウゾウと締結した。

市民向けにリユース推進に向けた啓発のため、「メルカリ教室」を市内各公民館で開催しているほか、資料に記載のとおり市立船橋高等学校商業科との教育連携事業を行っている。これは、販路開拓を希望する市内事業者と協力し、「メルカリ Shops」上にネットショップを開設するものある。高校生の発想や情報発信力を生かしながら、レストランや地場産品を扱う５つの事業者と販売戦略づくりに取り組んでいる。事業を通じて、販路拡大といった当初の目的だけでなく環境や教育の分野とも関連した展開がされている。

また、ふるさと納税については、返礼品充実や寄附者の負担軽減につながるよう取り組んでおり、令和４年１１月末時点での寄附実績は、３万件を超え約８億４７４０万円となっている。このままいくと過去最高額の寄附となると見込んでいる。

現在、楽天ふるさと納税サイト内で検索連動型広告を試験的に実施しており、広告効果を計っており、今後更なる地場産品の PR や寄附の拡大につながるよう努めていきたい。

続いて、２－③「商店街の活性化」及び２－⑧「企業立地の支援」について説明する。

市内への企業誘致や空き店舗解消を促進するため、市は一般社団法人千葉県宅地建物取引業協会船橋支部と、令和４年６月に船橋市事業用物件情報提供に関する協定を締結し、市ホームページ上において、市内の空いている用地・店舗情報の公開を開始した。

掲載物件以外についても空き用地・空き店舗を探している事業者から問い合わせがあった際には、宅建協会船橋支部に照会を行い、市内で事業を行いたい方の支援、及び空き物件解消に取り組んでいる。現在、市ホームページでは４件の物件を紹介している。

続いて、２－④「観光プロモーションの推進」である。

コロナ禍ということもあり、自宅の近くを気軽に訪れ楽しむ、いわゆる「マイクロツーリズム」に注目が集まる中、市ではドラマや映画の撮影支援に積極的に取り組み、ロケ地を観光資源化する取組を進めている。

その一環として、7 月に市内のロケ地を紹介する「ふなロケマップ」を作成し、配布しているほか、ロケ風景の写真や出演者のサイン色紙などを展示する企画展を、7 月以降順次１１会場で開催している。会場は公共施設だけでなく、１０月に市と包括連携協定を締結した東武百貨店船橋店などの商業施設も会場とし、多くの市民の方に企画展をご覧いただく機会を設けている。

また、ロケ地の観光資源化に際し、ニーズや課題を探るため、１１月２３日に市内のロケ地を巡るモニターツアーを開催した。募集定員を超える申し込みがあり、当日は雨

天にもかかわらず当選者全員にご参加いただいた。ロケ地に対する関心の高さや、アンケート結果からツアー内容に満足いただいたことがわかり、観光資源化に期待が持てる一方、ツアー開催にあたり施設との十分な調整を行い受け入れ体制を構築することの重要性や、採算性のある価格設定に課題があることもわかったので、事業化に向けて引き続き検討していく。

続いて、２－⑥「多様な人材の活用・働き方改革の推進」である。

これまで、本市では障害者に対する就労支援事業に積極的に取り組むほか、ハローワークなど国・県の関係機関と連携して就労に課題をもつ若年層、就職氷河期世代に対する支援を行ってきたが、今年度新たな取り組みとして、イケアジャパン株式会社と締結した包括連携協定に基づきイベントを開催した。このイベントは、ダイバーシティ推進を目的に、「働き方の数だけ自分らしさがある」をテーマとして、６月４日に船橋市民文化創造館を会場に開催したものである。イケアが取り組む「平等性、ダイバーシティ（多様性）＆インクルージョン（多様性の受け入れ）」に対する考え方や、イケアでの働き方について、現場で働くスタッフ自らがお話しするものである。３６人の参加があり、アンケート結果から「イケアの理念、働き方の多様性がよくわかってよかった」「自分らしく働ける職場の重要性を認識した」といった声が寄せられ、ダイバーシティや働くことについて考えるきっかけの場となったものと思う。

そのほか、セブンイレブン‐ジャパンと連携し、シニア向けのお仕事説明会を開催しており、今後も企業のノウハウを活用しながら、多様な人材が活躍できるよう取り組んでいきたいと考えている。

最後に、２－⑩「臨海部の高度利用化」である。

電子商取引需要の高まりといった要因に加え、谷津船橋インターチェンジの供用開始、東京外かく環状道路の開通、北千葉道路の整備など市内の道路交通環境の整備が進んでおり、物流施設の設置や操業ニーズが高まっている状況である。そのような中、まずは臨海部の高度利用化を図るべく、今年度改定する「船橋市都市計画マスタープラン」の「まちづくりの方針」における土地利用に関し、臨海部の工業地においては「産業地として付加価値の高い土地利用への見直しを検討する」旨の記載をするよう、関係部署と調整を図ったところである。マスタープラン改定後も関係部署との協議を継続し、臨海部の高度利用化の実現に向けて取り組んでまいる。

そのほかの重点取組事業の状況は資料記載のとおりである。

○事務局（商工振興課長）

ご質問、ご意見等はあるか。

○二宮委員

まず、船橋卸団地の状況について報告する。コロナ禍で、第三次産業である私たちは

一番矢面に立たされている。そして、コロナ禍で倒産、見込みが悪く厳しいところが出てきている。何とかしなければならないと、色々と取り組みをしているが、中々厳しい状況である。

それから人材も集まらず、ガソリン代等の経費もかかる状況である。何とか打開しようとしているが、建物も老朽化している。屋根は鉄板で潮風に４５年以上当たっている。売り上げも何とかしないといけない。

以上は卸団地の話だが、船橋市の卸売業は厳しい状況にあることを報告したい。

○鎌倉委員

現在、八千代市や佐倉市でキャッシュレス決済ポイント還元事業を実施しており、船橋市民もわざわざ八千代市まで行って買い物に行くほど人気がある。昨年度、船橋市で２０％のポイント還元事業を実施した際は、評判が良く売上も伸びた。もう一度２５％か３０％の還元で実施してもらえると商店街としては助かるが、市はどう考えているか。

○事務局（商業係長）

資料２「１－③消費喚起のための支援」にも記載したが、鎌倉委員から紹介のとおり、昨年度市では、PayPay 株式会社に委託してキャッシュレス決済ポイント還元事業を実施した。還元率２０％で行い、店舗の規模に制限は設けず大型店も対象として、予算を大きく上回る８６億円程の消費があり、事業者からも大変良かった、再度実施してもらいたいとの意見をいただいた。

一方で批判的な意見も少なくなく、キャッシュレスを使えない人には不公平、企業規模に制限を設けなかったため大型店に利用者が流れたのではないかという意見があった。

今年度は、県が１１月に還元率１０％で PayPay、auPAY、d 払い、楽天 Pay を対象にポイント還元キャンペーンを実施したが、こちらも好評で当初１１月末までの実施予定を１週間前倒しで終了となった。

キャッシュレス決済ポイント還元事業は一定の消費喚起効果があるものと考えているが、色々なご意見や、また国からの交付金などの財源も踏まえ、どのような消費喚起策が適当なのか検討していきたい。

○鎌倉委員

現時点でキャッシュレス決済ポイント還元事業を実施する予定はないということか。

○事務局（商業係長）

その通りである。

○鎌倉委員

もう一つ、市の補助金など制度は要件や提出書類が厳しいという問題があるので、取り組んでもらえると助かる。

○事務局（商業係長）

商店街に限らずあらゆる助成金や補助金関係の申請が大変である旨のご指摘をいただいているため、負担軽減のためなるべく簡素化に努め、最近ではオンライン申請などにも対応するようにしている。

一方で、国の持続化給付金など不正受給が社会問題化した面もある。簡略化できる部分、資料を揃えていただく部分のバランスを見極めながら不要なものは廃止し、必要なものは残したい。具体的な提案があればぜひいただきたい。

○山崎委員

直売所に一次産業とのコラボとして、JA いちかわのにんじんジュースとドレッシングの取扱いを始め、JA ちば東葛の小松菜のパウダーと麺の取扱いも開始する予定である。夏には小松菜ジェラートの取り扱う予定である。

また、JA いちかわからの提案で、小室で作っている粒すけのお酒を三番瀬みなとやで来店者向けに提供することを企画している。

○三槁委員

国の DX の取り組みとして、リスキリングを進めるため予算化しているというニュースを見るが、市の方でもそれに対応した取り組みができるのではないか。

○事務局（商業係長）

市としても DX や IT の推進をしているところだが、事業者向け支援として、資料２の「新しい生活様式に対応する支援」に記載した事業再構築・設備投資促進補助金を行っている。市が直接、設備投資に対する経費を補助するものではなく、国が行っている事業再構築補助金やものづくり補助金、小規模事業者持続化補助金の活用を促進するための制度である。これらの補助金は事業計画を作成するなど申請のハードルが高い。申請者自身で計画等の申請書類を作るのはなかなか厳しく、中小企業診断士や税理士、コンサルティング会社に委託し申請することが多い。当然ながら委託する場合には経費がかかるため、それを補助する制度となっている。

例えば、事業再構築補助金では新たな業態への移行、ものづくり補助金では生産効率を上げるための設備投資なども対象となるため、市の制度を活用してもらうことで、DX を推進してもらいたい。

○事務局（商工振興課長補佐）

学び直し、という広い意味では後期の重点取組事業のなかでの「多様な人材活用」でも関係してくるが、国や県の就労支援機関との取り組みを進めていくべき項目として考えている部分があるので、市でもやれることがないか模索している。

議題③　新型コロナウイルス感染症及び物価高騰の影響について

○事務局（商工振興課長）

続いて、「議題３　新型コロナウイルス感染症及び物価高騰の影響について」に移る。

新型コロナウイルス感染症に加え、今年のはじめころから、ロシアのウクライナ侵攻に端を発する物価・原油価格高騰の影響が深刻化してきている。市でも、様々な新型コロナ・物価高騰対策を行ってきているが、本日はぜひ委員から、所属する団体や関係する業種等の状況についてお話を伺い、市の施策の参考としたいと考えている。

○中村委員

貿易関係での物価高の影響は、新型コロナの最初に流行した際、アメリカでコンテナが滞ったこと、また船が動かなくなったことによる運賃の高騰から始まった。その当時は、燃料費の高騰はまだ無かった。コンテナは力のあるアメリカ、中国の港に集中し、その他の港にはあまり回ってこず、モノが入ってこない、出て行かない状況となっている。

次は、物価の高騰は材料費に響いている。特に、真鍮や銅が暴騰しており、モーターに銅をたくさん使う自動車産業が影響を受けている。材料費高騰に合わせた価格交渉への支援を行ってもらえると助かる。

工業関係はすべてが不景気ではない。新型コロナ流行後は、オンライン化が進み、それに関するパーツを製造している企業は忙しいと言われている。

工業関係への支援としては、運賃負担が無く出荷ができるようにしてもらえると良いと思う。

○伊藤委員

観光協会における新型コロナの一番の影響は、市民まつり、花火大会が開催できなかったことである。これにより、後期戦略 25 ページにもあるとおり、観光入込客数が大きく落ち込んでいる。

観光協会では、ふなばし朝市、街ガチャ、ロケツーリズムなど色々なことを試みながら、来年の市民まつりの開催を期待している。

○山崎委員

漁業協同組合では、船橋市エネルギー料金高騰対策助成金について、組合員に周知したところである。漁船では燃料を使用するが、これについては国や漁業協同組合連合会から助成が出ており、助かっている。

市名産のホンビノス貝については、漁獲量が低迷しているので、回復に努めているところである。また木更津市などで行われているカキ養殖についても、今年から試験を始めている。これが商品化できた際には、ぜひ皆さんの力をお借りしたい。

○木下委員

農協は金融機関でもあるが、新型コロナ流行当初は、大きなイベントが中止となり、出ていくお金が無くなり、金利収入で潤った。その後、検査キットやマスク、検温器など新型コロナ対策費や、感染した職員に特別休暇を与えるなどして、経営的にはコストが大きくなってきている。

農業者の影響は、物価高騰や異常気象が重なり深刻である。資材は輸入に頼っているので、大きな打撃となっているが、船橋市から早々と手厚い支援をしてもらい、組合員は大変助かっている。

しかし皆さんも心配していると思うが、来年になっても物価が戻ることは恐らく無い。来年以降も、行政や農協がどのような支援を行うべきか考えていく必要がある。

大きな影響が出ているのは、家畜の餌である。野田管内では酪農家があるが、資材高騰の影響で 2 軒廃業している。船橋市では若い農業者が増えているが、どうにか支援してもらわないと続けられないとの声が上がってきているので、農協としても対応が必要と考えている。

新型コロナの流行が続いているが、いつまでもそれを理由にしていられない。コロナ禍の中でどうするべきかを、しっかりと考えていかなければならない。農産物は地元で消費してもらうことが重要である。輸送コストや肥料が高くなっているが、例えば今まで 100 円で売っていた小松菜を、150 円で売ることは出来ない業種である。コストが高くなっていることを、市民も理解したうえで、地元のものを消費してもらいたい。これは農産物に限ったことではないと思う。

今までどおりに経営していると大変な状況になってきているので、皆さんと情報交換を行っていきたい。

○三橋委員

木下委員と重複するところが多いが、農業生産に関しては、コロナの影響は大きくない一方、資材や肥料の高騰の影響は大変大きい。船橋市が迅速に支援策を打ち出してくれて、組合員からは感謝の声が上がっている。この場をお借りして、お礼を申し上げたい。物価高に合わせて農産物の価格をあげられれば良いが、時期によっては下がってしまうこともある。

ＪＡいちかわでは、ＤＸ推進として、役員に一台ずつタブレットを貸与し、持ち帰りも出来るようした。一般職員に対しても、業務用スマートフォンを貸与している。

また農協での販売を増やすため、ＥＣを推進し、現在取り扱っている市川の梨だけでなく、来年以降、販売品目を増やしていく。

○二宮委員

来年以降、現在の状況がもとに戻るとは思っていない。何とかしなければならないが、厳しいところは淘汰されていくと思う。何でも市の助けを求めるわけにはいかないので、自助努力が必要である。良いところ、悪いところがあるのは当たり前であるが、悪くても生き残らなければならない。

これを意識して、卸商業団地協同組合では今後の対策を話し合っているが、思うようにいかないのが実情である。このままいくと、付いてこられないところもあるかもしれないが、新しいところを取り入れて活性化していきたい。

重点取組事業にある「２－⑨災害への備えの強化」や「２－⑩臨海部の高度利用化」を推進しながら、コロナに負けないような体力づくりを考えていきたいので、ぜひ行政も協力をお願いしたい。

○鎌倉委員

商店会内では、本人や家族がコロナに感染して出勤できなかったり、外国人労働者が帰国したきり戻ってこないなどで、従業員が不足している店がある。

先日佐倉市に行ったが、市が行っている 30%のキャッシュレスポイント還元事業は人気がある。北区の商店街でもキャンペーンを行っているが、対象店舗には行列が出来ていた。船橋市でも是非再度の実施を検討してもらいたい。

○田口副委員長

製造業のマクロ的な視点では、自動車を発注しても一年待ちになるなど、サプライチェーンが海外に及んでいる業種については、中国のロックダウンで部品が入ってこないなどにより、コロナの影響を大きく受けている。サプライチェーンに絡むような業種については、ピーク時と比べると、８割程度の運転となっている。自動車産業が奮わないと、鉄鋼業も奮わない。

また、先ほど鎌倉委員からも報告があったが、製造業でも外国人労働者が帰国して戻ってこられないという状況がある。さらにここ最近は、賃金が伸びないので、日本に来ても旨味が無いという話が聞かれており、現場での労働力不足が深刻となっている。

サプライチェーンが海外に及ばない業種についても、最近の物価高騰、特に電気、原燃料が高騰している影響が大きい。製造業で作っている製品は、基本的に原材料と加工・運送コストの合算額で製品価格を決定している。原料価格については比較的、顧客も状

況を理解しているので、価格交渉を行いやすいが、加工・運送費を理由とした値上げは理解を得づらく、営業部隊は苦戦していると聞く。顧客にコスト構成をさらすわけにもいかないので難しい問題である。

東京電力は、廃炉問題を抱えているほか、火力主体の発電となっていることから、燃料コストがあがり、赤字体質から脱却できない。さらには、発電力が不足しており、他の電力会社から高い料金で電力を購入し賄っている。来年はこの市場調達した電力のコストも燃料調整費に加えたいという意向なので、我々の利益がなくなるほど、影響が出る恐れがある。また国内では電気料が高い地域と安い地域があり、その格差も表面化してきており、エネルギー政策上の不安を感じている。

いずれにせよ、原燃料の高騰は大きな問題であり、いかに顧客に理解してもらえるかが課題である。

○篠田委員長

船橋商工会議所は、令和２年５月から、これまで８回の市内事業所を対象としたアンケートを行っている。

最新の調査結果によると、新型コロナや物価高騰が売上に影響を与えたと回答したのは 76%だった。前回の調査と比べて６％減ではあるが、高い水準となっている。

具体的な影響の内容としては、「仕入れ・原材料コストの上昇」と答えた割合が高かった。仕入れ・原材料コストが上昇していると答えた割合が高い業種は、卸売業、小売業、製造業、宿泊・飲食サービス業、建設業の順となっている。

期待する支援策としては、「給付金・助成金・補助金の申請支援」が高くなってきている。先ほども鎌倉委員から申請書類が複雑との意見があったが、商工会議所としてはかなり中小零細企業の支援は出来ていると思っているので、ぜひ商工会議所も利用してもらいたい。

また予算規模の大きな国や県がしっかりして、地方の企業に助成をしてもらいたいと思う。船橋市は、金額は小さいかもしれないが、迅速に動いていると思う。それでもさらなる支援を望む声があることから、市と商工会議所が連携して支援を検討していければと思う。

インボイスの登録状況についても調査を行った。回答者のうち、「登録済」が 48%、「必要性を感じているが登録していない」が 22%、「必要性を感じていないので登録していない」が 15%となっている。来年 10 月には制度開始することとなっているが、現在でも制度に反対している団体はある。

軽減税率が無ければインボイスも無かったが、船橋市にある納税協力団体は軽減税率の導入に反対した。行政への意見は上げていった方が良いと思う。意見を訴えていかないと、行政に意識もされない。

商工会議所としては、インボイス制度は始まるものとして、研修会など普及促進に努

めている。反対する人もいるかと思うが、登録しないと不利益になる場合もあるので、ぜひ商工会議所を活用して欲しい。

変化しないと生き残れない時代となっているが、柏のある商店会の会長が 30 年ほど前に、「地元の人が最後まで自分の店を続けることに拘らないで、その地域に合った業種に貸すことが大切である。大事なのは、地元の地権者が権利を持って、時代に合った人を連れてくることで、それが街の商業活性化につながる。業種を変えることは恥ではない。」という話をしていた。

各企業・団体とも変革するのは大変であり、行政も色々な意見を言われると思うが、それぞれの意見は甘んじて受け取って欲しい。行政も出来ること、出来ないこともがあると思うが、現状を発信しなければ行政の人もわからないし、県や国にも伝わっていかない。ぜひ各企業・団体は、困っていることがあれば、遠慮なく商工会議所や行政に伝えて欲しい。

○事務局（商工振興課長）

本日いただいた意見は、今後の市の施策検討にあたっての参考とさせていただきたいと思う。

また、篠田委員長からも話があったとおり、常日頃から意見を聞くことの大切さを改めて感じた。お気軽に商工振興課にお問い合わせいただき、色々なご意見や質問を伝えて欲しい。

よろしければ、以上で本日の議題は終了となるが、委員長、よろしいか。

○篠田委員長

はい。

○事務局（商工振興課長）

それでは、以上をもって、「令和４年度第１回船橋市商工業戦略プラン推進会議」を終了する。

以上